

東彼杵 ダラフ

2 / 23 郷 太ノ浦郷

地域おこし協力隊が東彼杵町を歩く。
今回は山間部に位置する太ノ浦郷へ行ってみた。
ぽかぽか陽気に誘われて、おもしろいコトと春を探して散策。
地元で古くから大切にされている氏神さまの例祭にも参加できた。





太ノ浦郷歩きは大野原周辺地区集会所からスタート。こちら一帯の水道は炭酸系の水が出るらしい…という情報があったのでリサーチをすることにした。

裏の公園では住民がグラウンドゴルフを楽しんでいる。焚き火にあたる池亀保則さんにさっそく話を聞くと、「それは聞いたことなかね。昔は水があまり出なかった所とは聞いてるが…。うちの敷地には水神さまもおるが関係なかるう」。炭酸水にはどれも結びつかなかった。

その後も、出会う人に「水、シュワっとしますか？」とかなり怪しい問いかけをし続けたが、「そんなことなか」「わからんねー」という返答でピンときた人はいなかった。

ならばと本丸を攻めた。特別に役場水道課の許可を取り、水道施設のカギを開けて中へ入る。蛇口を捻ると、白い水が勢いよく飛び出した。気泡があって見た目は確かに炭酸っぽい。飲んでみた。のど越しのシュワシュワを期待したが、ゴクゴクと流れていく…普通の水道水のように。残念。

もう少し歩くことにした。ところどころに菜の花が咲き、周りをチョウやハチがうれしそうに飛んでいる。「ワン！ワン！」と長いリードをめいっばい延ばして犬が近づいて来た。すぐに軽トラックが到着。池亀さんの愛犬チロだった。荷台のカゴの中にはワラビがいっぱいだ。

「今年は早ようから出とった」と池亀さん。おすすめの食べ方は、ワラビを塩クジラと一緒に煮て醤油などで味付けをするだけ。「クジラは安かものでも十分。ワラビとよく合っとうまかよ」と教えてくれた。

辺りは野焼きが行われた後でこんがりしていた。歩くとザクザクして気持ちいい。野焼きは草原が森林化するのを防ぎ、さらには植物の芽生えを促す効果もあるという。焼いた後に芽吹くワラビは太くて柔らかいと評判で、滋味深い味わいが住民に春の訪れを感じさせてくれる。私たちも食べる分だけを摘み取って帰った。

水の話は泡となり弾けてしまったが、春を満喫するには楽しい散策になった。



(写真右上)

わざわざ軽トラックから降りて話してくれた池亀保則さん



4月9日、再び太ノ浦郷へ向かった。旧暦の3月10日となるこの日は、地域で“こんぴらさん”と親しまれる琴平神社の例祭が行われる。

琴平神社の祭神は大己貴命（おおなむちのみこと）で大物主命（おおものぬしのみこと）や大国主命（おおくにぬしのみこと）と同神ともいわれる。農業殖産、漁業航海、医療、温泉などの神様であり、大黒様としても広く尊崇されているという。

社殿は八ノ久保という高台に鎮座する。3か所からアクセスできるのだが、鳥居をくぐる2か所はいずれも急な坂。落ち葉が堆積して滑ること滑ること。地域の人々は“神様の道”としてこちらからはあまり登らないらしい。残る1か所は整備されていて、車でも近づける。

午前8時半、23世帯が神前に並んで座る。お茶や米など農家さんが多いだけに、今期の豊作や五穀豊穰、家内安全などを祈願。太ノ浦郷では琴平神社が昭和初期にこの場所に移った頃より、農業で節目となる春、夏、秋に住民が集まり祈願している。

すぐに賑やかな宴が始まった。突撃にもかかわらず、私たちを受け入れてくれた新区長の松尾明人さんに改めてお礼をする。お猪口で御神酒をちょこちょこいただきながら、琴平神社について詳しい人を探していると、森健吾さんに辿り着いた。

「琴平神社は歴史ある神社です。大村藩の守護神として、慶応3（1867）年、大野原高原にある琴平岳（山）の山頂に建立された金毘羅大権現（こんびらだいごんげん）が起源。その後、明治44（1911）年に陸軍省が大野原高原を演習場として買収した際に太ノ浦郷へ、今の場所には昭和6（1931）年に移りました。ここは大村湾を見下ろす風光明媚なところだったようです」

琴平神社の境内には、社殿を建立したことを記念する石碑がある。経年変化で字が読みづらいところがあり解説を諦めていたのだが、森さんは農作業が落ち着く冬期に足繁く通い、メモに書き残し、原稿用紙に起こしてテキスト化したそう。詳しいはずだ。

面白い話もたくさん聞けた。五島市と平戸市に“田ノ浦”という地名がある。森さんの見解では、「大村藩が大野原の原野を開墾するにあたり、五島や平戸から農民15世帯が移住しています。郷里に戻った誰かが太ノ浦を懐かしんで、地名に付けたのではないかと考えています」とのこと。

（写真上）

「ひと冬かかりましたが楽しかったですよ」と森健吾さん。テキスト化した紙は太ノ浦公民館内に飾ってある





宴もたけなわ。ありがたいことに、お供え物が私たちにも回ってきた。大きくて丸い紅白の餅は、地域のお母さんたちが4升の米を使って手作りしたもの。丸を四角く切って世帯分にするのだが、急な人数の増加で計算が狂ってしまったよう。包丁をあてては直すを繰り返す。恐縮していただいた。

旧暦の10月10日（今年は12月1日）には秋の例祭が行われる。大村市にある昊天宮から神職が祈祷に来て、春より“少しだけ”盛大に行われるそうだ。秋の太ノ浦郷も訪ねてみたい。

今回も歩いてみると面白いトピックスがいっぱいあった。出会った住民から「ここは何にもなかよ」とたびたび言われて不安になったが、せっかく歩いた龍頭泉をポツにするほどだった。

※太ノ浦郷へは、町営バス「太ノ浦」または「大野原周辺地区集会所」のバス停を利用。



次回は木場郷。お楽しみに！

制作 地域おこし協力隊
文 飯塚将次
写真 堀越一孝
編集・デザイン 小玉大介